

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	コロナ禍の中でも、事業所内での活動を充実させ、利用者には大きな不安を抱くことが無いように配慮しています
	内容	日々の活動は、メインとする活動は設けずに、例えば革工芸を希望する利用者に対しては革工芸活動に取り組んで頂いたり、ちぎり絵などの作品作り、訓練活動としてマット上での各種のリハビリや運動、音楽療法であるミュージックセラピー、ST(言語聴覚士)やPT(理学療法士)による訓練なども定期的に行っています。特に今年度もコロナ禍の中で、利用者には大きな不安を抱くことが無いように配慮するほか、外出活動も減少しましたが、それに変わる代替案を職員も提案しながら、利用者が不安なく通所できるように様々な工夫を凝らしています。
2	タイトル	毎月メンバー懇談会を定例化しており、利用者本人が直接、意見や要望を表出できる機会を大切にしています
	内容	事業所では、「個人の尊厳」、「自立の尊重」を大切な考えの中に置いています。開設当初から利用者の意思を尊重していくこと、利用者の要望を表出できる環境を大切にしています。具体的に利用者の意見や要望が表出できるように、毎月利用者を交えたメンバー懇談会を開催し、事業所から今後の行事予定を説明したり、毎月テーマを決めて、利用者自らが意見や要望を気軽に表出できる場として継続して取り組んでいます。事業所内でのレク活動や行事なども利用者からの要望を大切にしていることで、取り組みへの意欲の向上にもつながっています。
3	タイトル	事業所の取り組みを多くの方に知って頂けるように、ホームページを定期的に更新して、最新情報を積極的に発信しています
	内容	今年度ホームページが改訂され、法人が運営する各事業所の詳細のほか、「六三四通信」のコーナーでは各事業所での取り組み内容を発信しており、お楽しみ会の内容や移動水族館を呼んでみんなで楽しんだ様子など定期的に発信しています。さらにホームページからは年3回発行している「六三四たより」のダウンロードが可能なほか、事業所で作成した作品を「雅アートセラピー」として利用者が作った作品を発信しています。多くの方に事業所の内容を知って頂けるように、ホームページを定期的に更新して、最新情報を積極的に発信しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	アセスメントの見直し方法の工夫や個別支援計画書に明示している期間について具体的にいつからいつまでかを明示できると良いと思われます
	内容	アセスメントで抽出した現状や課題を踏まえ、利用者一人ひとりの個別支援計画を作成し支援方針を明確にしています。個別支援計画には利用者及び家族の要望、支援目標と課題、具体的な課題及び支援計画等を記し、要望実現のための具体的な課題、支援内容、支援期間、優先順位について具体的に定めています。個別支援計画は6ヶ月毎モニタリングを行い、年に一度見直ししています。今後に向けてはアセスメントの見直し方法の工夫や個別支援計画書に明示している期間について具体的にいつからいつまでかを明示できるとよいと思われます。
2	タイトル	事故につながる恐れのある危険事例を積極的に「ヒヤリハット報告書」に上げ、事故予防の意識が全体で高まるこことを期待します
	内容	事業所内外で発生した事故については軽微な事故は「トラブル報告書」、重大事故は「事故報告書」を作成し、今後の対策を講じ、事故につながりやすい事例は「ヒヤリハット報告書」を作成しています。しかしながら事故の予防につなげるヒヤリハットの提出が全般的に少ないことが課題となっています。今後に向けては事故につながる恐れのある危険事例についてより積極的に「ヒヤリハット報告書」に蓄積できるとよいと思われます。事故を予防するための手段として効果的な活用につながるように、より積極的な危険事例の提出を期待します。
3	タイトル	
	内容	